

修士論文（要旨）
2020年1月

性的意識と愛着スタイルおよびアサーション行動との関連性について
-心理的側面からの有効な性教育の検討-

指導 山口 創 教授

心理学研究科
健康心理学専攻
218J4057
岸野 真帆

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

The Relationship between Sexual Consciousness, Attachment Style, and
Assertion Behavior: An Examination of Effective Sex Education from the
Psychological Aspect

Maho Kishino
218J4057

Master's Program in Health Psychology
Graduate School of Psychology
J.F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Hajime Yamaguchi

目次

序章	1
第1章 研究の背景と目的	
1.1 性的意識についての研究	5
1.2 愛着スタイルについての研究	9
1.3 アサーション行動についての研究	12
1.4 本研究の目的と意義	16
第2章 方法	17
第3章 結果	
3.1 分析対象者と属性	20
3.2 性別による各尺度得点の差異	20
3.3 各尺度得点の記述統計	21
3.4 性的意識と愛着スタイル, アサーション行動における性差の検討	23
第4章 考察	
4.1 性別による各尺度得点の差異	26
4.2 各尺度得点の記述統計	26
4.3 性的自己意識と愛着スタイルについて	28
4.4 性的自己意識とアサーション行動について	29
4.5 性的リスク対処意識と愛着スタイルについて	30
4.6 性的リスク対処意識とアサーション行動について	31
第5章 総合考察	
5.1 本研究で得られた知見	32
5.2 研究の限界と今後の課題	33
5.3 心理的側面からの有効な性教育の検討	33
謝辞	
参考文献	
資料	

➤ 研究の背景

近年、我が国において性行動の低年齢化、それに伴う望まない妊娠や、HIV/AIDSをはじめとする性感染症の罹患など、性に関する問題が懸念されている。性行動や性意識における性差の顕在化、一部の層における性行動低年齢化のさらなる進行、そして全体的な性行動の停滞のなかで、どのような課題とその解決策があるのだろうか(林, 2019)。

草野(2016)は性的意識を「性的自己意識」「性的リスク対処意識」の二つに分類した。性的自己意識は①”自己の性機能や生殖性や身体像など性的存在としての認知”, ②”自己の性的成熟性や性行動に対する感じ方”であり, 性的リスク対処意識は①性的関係におけるリスクを避けるための適切な行動が取れる自己管理能力の認知”, “②相手と親密な関係を形成しコミュニケーションをとることのできる性的対人関係能力に関する自信”と定義している。性の特徴として可塑性があり, 社会的環境要因が性意識に大きく影響していることが先行研究により示されている。愛着においては, 対人関係の基本であると同時に, 性愛も愛着を土台に発達する(岡田, 2011)とされ, SIECUS が提示する性的に健康な人の生活行動に関するリストの中には, 「パートナーに効果的に意思を伝える」「セクシュアリティを表出するが, 同時に他者の権利をも尊重する」というアサーティブなコミュニケーションをとることについて指す項目などが含まれている。

➤ 目的

性的意識を性的自己意識と性的リスク対処意識の両面から捉え, 各意識を説明変数とし, 愛着スタイルとアサーション行動における各因子との関連性について検討を行い, 本研究の結果を, 今後の包括的性教育の実施の実現のため, 心理学的側面からの有効な性教育についての検討を行うことを目的とする。

➤ 方法

本調査は, Web アンケートによる調査を用いた。調査の結果, 合計 200 名の回答数が得られた。そのうち 18 歳から 25 歳の青年期を対象とした研究のため, 対象年齢外の回答者は除外し, 欠損値を除き, 最終的に 193 名を分析対象とした(有効回答率 96.5%)。分析対象となったのは, 男性 65 名, 女性 125 名, 不明 3 名であり, 平均年齢 21.87 歳 ($SD=1.89$) であった。質問項目の構成は, ①フェイスシート②性的自己意識尺度③性的リスク対処意識尺度④成人愛着スタイル尺度⑤アサーション行動尺度⑥性的意識の認知に関する調査⑦性的接触における性交渉についての調査である。

➤ 考察

本研究は, 性的意識と愛着スタイル及びアサーション行動との関連性について検討を行うものであったが, 本研究の結果から, 性的意識(性的自己意識/性的リスク対処意識)と愛着スタイル, アサーション行動にはいずれも関連があり, それぞれに性差があることが明らかとなった。また, アサーション行動で正の相関, 愛着スタイルで負の相関が見られたことについては, 各下位因子における相関では性差が見られたが, どちらも男女ともに共通しているものであった。

不安定な愛着スタイルは, 性に対する意識を下げることから, 性に関する諸問題に直面する場面に遭遇する確率が高くなっていることが考えられる。しかしアサーション行動において性的意識と正

の相関があるという研究結果から、性教育において、性差を視野においたアサーショントレーニング等を用いて、個々のニーズに応じた性教育の実践が有用であることが考えられる。

我が国における性的意識における研究は少なく、愛着スタイルとアサーションにおける性的自己意識と性的リスク対処意識との関連性において、本研究の結果は、今後の我が国における性に関する心理学的研究の発展と、今後の性教育における心理的側面からの介入において、どちらも有用になり得る結果を示せたのではないかと考える。

主な引用文献

- Ainsworth, M.D.S., Blehar, M.C., Waters, E., & Wall, S. (1978). *Patterns of attachment: A psychological study of strange situation*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Bartholomew, K., & Horowitz, L. M. 1991 Attachment styles among young adults: A test of a four-category model. *Journal of Personality and Social Psychology*, **61**, 226–244.
- By Franz, Molly R., DiLillo, David, Gervais, Sarah J. (2016). Sexual Self-Concept and Sexual Self-Efficacy in Adolescents: A Possible Clue to Promoting Sexual Health?, *The Journal of Sex Research*. Vol.45, Issue 3.
- Coleman, J.C., & Hendly, L.B. (1999). *The Nature of Adolescence*. 3rd ed. Routledge. (コールマン, J.C.・ヘンドリー, L.B. 白井利明他(訳)(2003). 青年期の本質 ミネルヴァ書房, pp.121-151.)
- Erikson, E.H. (1968). *Identity: youth and Crisis*. W.W. Norton. (エリクソン, E.H. 岩瀬庸理(訳)(1982). アイデンティティ: 青年と危機 改訂版 金沢文庫, 113-186).
- Fisher, J.D., & Fisher, W.A. (1992). Changing AIDS risk behavior. *Psychological Bulletin*, **111**, 455-474.
- Fisher, J.D. and William A. F., (1992). “Changing AIDS-Risk Behavior.”, *Psychological Bulletin*, **111**(3): 455-474.
- 松本 清一・宮原 忍 訳(2003). セクシュアルヘルスの推進 行動のための提言(増補版). Pan American Health Organization World Health Organization Promotion of Sexual Health Recommendations for action.
- 浜田 恵(2012). 臨床心理学における「性に対する態度」研究の展望: 医学・教育・心理学の性に対する文献レビューによる検討 九州大学心理学研究. **13**, pp93-100.
- 繁田 進・青柳 肇・田島信元・矢澤圭介[編](1991). 社会性の発達心理学, 福村出版.
- 平木 典子(1993). 改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために-, 金子書房.
- 石川 由香里(2019). 「青少年の性規範・性意識からみる分極化現象」, 日本性教育協会編『「若者の性」白書-第8回青少年の性行動全国調査報告』, 小学館. 47-67.

飯田 大輔(2014). 中高生における性的リスク予防意識への心理教育的介入プログラムの試み—アサーション能力・自尊感情の観点から—. 秋田大学大学院研究報告. https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/abstract_pdf/2512008.pdf.

中尾 達馬・加藤 和生(2004). 成人愛着スタイル尺度(ECR)の日本語版作成の試み 心理学研究 **75**, 2, 154-159.

中尾達馬・加藤和生(2004). “一般他者”を想定した 愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討, 九州大学心理学研究, **5**, 19-27.

岡田 尊司(2011). 愛着障害 子ども時代を引きずる人々, 光文社新書.

Offer, D. (1969). *The Psychological World of the Teenager: A Study of Normal Adolescent Boys*. New York: Basic Books.

Offer, D., Ostrov, E., Howard, K.I., & Atkinson, R. (1988). *The Teenage World: Adolescents' Self Image in Ten Countries*. New York: Plenum Medical Book Company.

金子 和弘・今井 有里紗・加藤 孝央・常本 智史・城 佳子(2010). アサーション行動尺度における信頼性・妥当性の検討, 生活科学研究.**32**.57-66.

加藤 秀一(2019). 青少年の性についての悩み—自由記述欄への回答からみえるもの—, 日本性教育協会編『「若者の性」白書—第8回青少年の性行動全国調査報告』, 小学館. 167-185.

草野 いづみ(2006). 大学生の性的自己意識, 性的リスク対処意識と性交経験との関係, 青年心理学研究 **18**, 41-50

土田 陽子・俣野 美咲(2019). 「青少年の避妊行動の実際と包括的性教育の可能性」, 日本性教育協会編『「若者の性」白書—第8回青少年の性行動全国調査報告』, 小学館. 129-146.

菅沼 憲治・小熊 均(2011). アサーショントレーニングが認知と行動に与える影響, 日本心理学会. 口頭発表.

高坂 康雅・澤村 いのり(2017). 大学生が恋人とセックス(性行為)をする理由とセックス(性行為)満足度・関係満足度との関連, 青年心理学研究.**29**. 29-42.

田中 直樹(2011), アサーション・トレーニング さわやかなく自己表現)のために, 日本心理学会 第75回大会. 口頭発表.